

平成 15 年 9 月 1 日

今回は中耳炎についてのお話です。

中耳とは、鼓膜の奥にある空洞をいい、耳管(じかん)という管を通じて鼻とつながっています。

中耳炎には急性中耳炎、慢性中耳炎、滲出(しんしゅつ)性中耳炎などがあります。

急性中耳炎・・・耳管を通じて中耳に細菌が侵入し炎症が起きた状態を、一般に急性中耳炎といいます。多くは上気道の炎症や風邪の症状の後に発症し、プールやお風呂で耳の外側から水や細菌が入って発症するのは稀です。乳幼児がかかりやすいので、お母様は注意が必要です。症状は、耳の痛みや耳の詰まった感じ、発熱、難聴などです。悪化すると中耳に膿(うみ)がたまり、激しい痛みが生じることがあります。時に鼓膜を破り膿が流出することもあります。こうなると痛みは和らぎますが、適切な治療を受けずに放置すると慢性中耳炎の原因にもなります。

慢性中耳炎・・・一般的に急性中耳炎の鼓膜の穴は炎症が治まると自然閉鎖しますが、鼓膜の穴が塞がらない状態に移行した場合が慢性中耳炎です。痛みは軽い場合が多く、難聴が代表的な症状です。痛くないからといって、この状態を長期間放っておくと内耳まで影響がおよび難治性の難聴をきたす場合もあります。

滲出性中耳炎・・・中耳に体液が溜まるもので、耳が塞がった感じや難聴が主な症状です。小児と老人に多く、急性中耳炎が完全に治っていない場合やアレルギー性鼻炎や小児副鼻腔炎などが原因です。

治療**急性中耳炎の治療**

原因となる細菌を退治するためのお薬(抗生剤)を使います。サワシリン、セフゾン、フロモックス、バナンなどの抗生剤が使われます。効きが悪ければ他のタイプの抗生剤を使います。痛みが強ければ、ポンタールなどの痛み止めのお薬を使うこともあります。重症の場合、注射で強力な治療を行うことも必要です。中耳の排膿・換気を目的として鼓膜切開が行われることもあります。

完治するまで治療を継続し、医師から許可が出るまで水泳や運動は控えて下さい。

慢性中耳炎の治療

抗生剤の飲み薬や点耳薬で細菌を退治します。手術による治療が必要なこともあります。

滲出性中耳炎の治療

中耳腔に溜まった体液を除くことが第一です。鼓膜を通して注射針で排液させたり、鼓膜に小さなチューブを差し込む方法などがあります。鼻やのどの炎症が原因になっている場合は元になる病気の治療をします。

強く鼻をかむと鼻やのどの細菌をさらに中耳に送りこむ結果となりますので注意して下さい。

たびたび耳だれの出る方、耳の聞こえの悪い方、また「鼓膜に穴があいてますよ。」などと言われたことのある方はこれらの症状、状態を放置せず、適切な治療を受けるようにしましょう。

